

製品名: CPN 猫ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09320**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	total 52kDa,Cleaved 48kDa

抗原情報

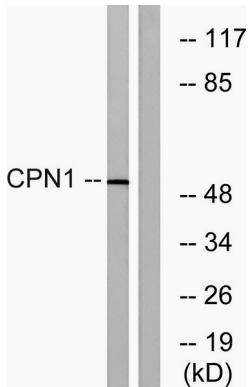
遺伝子名	CPN1 CPN1; ACBP; Carboxypeptidase N catalytic chain; CPN; Anaphylatoxin inactivator; Arginine
別名	carboxypeptidase; Carboxypeptidase N polypeptide 1; Carboxypeptidase N small subunit; Kininase-1; Lysine carboxypeptidase; Plasma carboxypeptidase B; S
遺伝子 ID	1369.0
SwissProt ID	P15169
免疫原	抗血清はヒト CPN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 409-458

背景

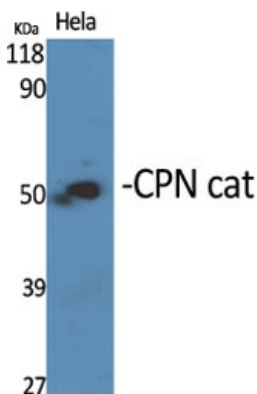
カルボキシペプチダーゼ N は、ペプチドおよびタンパク質の C 末端から塩基性アミノ酸を切断する血漿メタロプロテアーゼです。この酵素は、キニンやアナフィラトキシンなどのペプチドの調節に重要であり、キナーゼ -1 やアナフィラトキシン不活化因子としても知られています。この酵素は、2つの同一の調節サブユニットと2つの同一の触媒サブユニットからなる四量体であり、この遺伝子は触媒サブユニットをコードしています。この遺伝子の変異は、カルボキシペプチダーゼ N 欠損に起因する血管性浮腫または慢性蕁麻疹と関連する可能性があります。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: C 末端塩基性アミノ酸 (主にリジン) の放出。、補因子: サブユニットあたり 1 つの亜鉛イオンと結合する。、疾患: CPN1 の欠陥はカルボキシペプチダーゼ N 欠損症の原因である [MIM: 212070]。罹患患者は、血管性浮腫または慢性蕁麻疹、ならびに枯草熱または喘息の組み合わせを呈し、また血清カルボキシペプチダーゼ N がわずかに低下していることから、この疾患の常染色体劣性遺伝が示唆される。機能: 循環血中に放出される、C 末端にアルギニンまたはリジンを含む強力な血管作動性および炎症性ペプチド (キニンやアナフィラトキシンなど) から身体を保護する。、類似性: ペプチダーゼ M14 ファミリーに属する。、サブユニット: 2 つの触媒鎖と 2 つのグリコシル化不活性鎖からなる四量体。、組織特異性: 肝臓で合成され、血漿中に分泌される。、

研究分野

画像データ



CPN1 抗体を用いた RAW264.7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CPN cat ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析

CPN cat ポリクローナル抗体を用いた Hela 細胞のウェスタンブロット解析

